

町制施行 70 周年記念誌

10 年の歩み

新潟県 津南町



町制施行 70 周年記念誌

10年の歩み

目次

町制施行70周年記念誌「10年の歩み」発刊にあたり

津南町長 桑原 悠 ……2

年表（津南町の歴史）

◎平成28年～29年 ……3

◎平成30年～31・令和元年 ……4

◎令和2年～3年 ……5

◎令和4年～5年 ……6

◎令和6年～7年 ……7

時間が積もり
景色が深まる
これが70年の証

町制施行 70 周年記念誌 「10 年の歩み」 発刊にあたり

津南町長 桑原 悠



昭和30年1月1日、下船渡、外丸、芦ヶ崎、中深見、秋成、上郷の六村が合併し、新たに津南町が誕生いたしました。それから70年、本年この節目を迎えられたことは、先人のたゆまぬ努力と、町民の皆さまをはじめ多くの関係各位の温かいご支援とご協力の賜物であり、心より深く感謝申し上げます。

創設当初の昭和30年代、津南町はまさに豪雪との闘いの時代でありました。除雪機械や消雪パイプが整備されていなか、人々は屋根の雪下ろしや道踏みを重ね、家を、地域を、そして町を守ってまいりました。時は流れ、技術の進歩とともに雪国の暮らしは大きく様変わりし、今では四季折々の自然と共生する豊かな地域社会としての歩みを続けております。

町は創設以来、「農を以て立町の基と為す」を町是に掲げ、農業を基幹産業として発展してまいりました。昭和48年度より国営苗場山麓開発事業を中心に農業基盤の整備を進め、安全・安心で高付加価値の農産物生産や森林資源の有効活用に努めてきました。昭和60年には「グリーンピア津南」が開設され、観光振興と雇用創出に大きく寄与してまいりました。現在は民間譲渡による新たな再生を進めております。

社会基盤整備の面では、平成23年に国道117号線の難所を克服する「大倉ト

ンネル」が開通し、長野県と新潟県を結ぶ重要な交通の大動脈として機能しています。また、灰雨地区では令和5年に新トンネル掘削工事が完了し、早期の開通が期待されております。さらに、平成22年度には下水道事業など衛生環境の整備が完了し、住環境の向上にも大きく貢献いたしました。

平成の大合併が全国的に進められた中にあっても、津南町は自立の道を選択し、町民とともに独自の発展を遂げてまいりました。私が平成30年に町政をお預かりして以来、「希望と愛、参加できるまちづくりー未来をつくる子どもたちのためにいま、立ち上がろうー」を町政の理念に掲げ、各分野の政策に取り組んでおります。

「希望のまちづくり」として、農業の担い手育成や新技術導入に力を注ぎ、令和元年には「雪下になじん」がGI認証を取得。令和5年には「米・食味分析鑑定コンクール国際大会inつなん」を開催するなど、農業と自然に根ざした持続的な地域づくりを進めております。また、本年10月には津南町埋蔵文化財センター「うもれあ」が開館し、「文化立町」としての新たな歩みも始まりました。

「愛あるまちづくり」では、地域医療体制の強化や福祉の充実を推進し、若手医師の受け入れ、在宅介護手当の拡充、子ども医療費入院無償化、障害者グルー

プホーム開設支援などに取り組んでまいりました。教育においては、GIGAスクール構想による1人1台端末整備や苗場山麓ジオパークを活かした学びを進め、令和9年には3小学校を1校に統合し、より良い教育環境を整備いたします。「参加できるまちづくり」として、令和4年に「まちなかオープンスペース『だんだん』」を整備し、商店街の活性化や交流人口・関係人口の拡大に努めております。

70周年の節目を迎えるにあたり、私たちは新型コロナウイルス感染症や能登半島地震などを経て、社会の在り方を改めて省みる時期にあります。本年は第6次津南町総合振興計画および第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の見直し年でもあり、町民の皆さまとともにこれらを検証し、将来世代が夢と希望を持てる持続可能な町づくりを進めてまいります。

結びに、津南町の発展に貢献された全ての皆さまに深く敬意を表するとともに、町民の皆さまのご健勝とご多幸、そして本町の一層の飛躍を心より祈念申し上げます。

年表

津南町の歴史

The chronological table of
Tsunan town history.

平成28年のできごと

- 2月 ・最高積雪108cmと例年にない少雪。
- 4月 ・同年4月に発生した熊本地震の被災地へ、緊急支援物資として「津南の天然水」（500ml）2万本を送付。（写真①）
- 6月 ・熊本地震の被災地の支援に職員を派遣。民謡歌手の涌井晴美さんをふるさと大使に任命。
- 7月 ・信濃川流域の火焔型土器と雪国の文化が日本遺産に登録。
- 8月 ・秋篠宮文仁様、紀子様、悠仁様がご来町。
- 9月 ・大学生らが、津南町をはじめとする降雪地域の課題解決に向けた政策提言を行う、公共政策フォーラム開催。（写真②）
- 11月 ・44年ぶりにSLが飯山線を運行。（写真③）



平成29年のできごと

- 4月 ・コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）が開始。
- 6月 ・町内郵便局及び十日町郵便局と、安心して暮らせる町を目指した協定を締結。
- 7月 ・「第1回津南町地域おこしカラオケの集い」開催。（写真①）
- ・ニュー・グリーンピア津南のスキー場内に谷の展望台が完成。（写真②）
- 10月 ・大船町営住宅の建設工事が竣工。
- ・㈱エフエムとおかまち、損害保険ジャパンと防災応援協定を締結。
- 11月 ・老人ボランティアグループが緑綬褒章を受章。
- ・津南中学校の男子駅伝チーム、全国大会に出場。（写真③）
- ・マウンテンパーク津南付近に川の展望台が完成。
- 12月 ・㈱ゼンリンと災害時応援協定を締結。



平成30年のできごと

- 2月
・除雪ボランティア「スコップ」が津南町で初活動。
- 3月
・塩沢信用組合(現…ゆきぐに信用組合)と包括的連携協定を締結。
・日本自動車連盟と観光協定を締結。
- 4月
・津南小学校の増築工事が竣工。(写真①)
- 7月
・上村憲司前町長が退任し、桑原悠町長が着任。(写真②)
- 8月
・大地の芸術祭2018が開催され、香港ハウスなどが完成。(写真③)
- 10月
・北海道胆振東部地震の被災地の支援に職員を派遣。
・町内郵便局と包括的連携協定を締結。



令和2年のできごと

- 3月
・中津保育園が閉園。(写真①)
- 6月
・プレミアム付津南町共通商品券を配布
・新型コロナウイルスによる影響から、飲食店がテイクアウトなどの商品を提供する「津南エール飯」を実施。
・YouTubeなどを活用した情報発信担当の地域おこし協力隊が着任。
- 7月
・津南まつり、ひまわり広場などのイベントが中止。
・ユリ農家×女将プロジェクトが始動。
- 12月
・第1回津南町米・食味分析鑑定コンクールを開催。(写真③)



平成31年・令和元年のできごと

- 1月
・苗場山麓ジオパークが日本ジオパークに再認定。
- 5月
・津南未来会議を開催。(写真①)
- 6月
・津南町交通死亡事故ゼロ1000日を達成。
- 7月
・演歌歌手の中澤卓也さんを津南町ふるさと大使に任命。
- 9月
・津南病院の阪本琢也前院長が退任し、林裕作院長が就任。
- 10月
・台風19号による豪雨被害が発生。住家や農地、道路などに甚大な被害。(写真②)
- 11月
・豪雨被害が大きかった福島県の被災地の支援に職員を派遣。
・尾木直樹さんの講演会「これからの子どもと大人のかかわり方」開催。
・津南中学校50周年式典を開催。(写真③)



令和3年のできごと

- 1月
・明治安田生命保険相互会社と健康増進に関する連携協定を締結。
- 2月
・町内の避難所用に移動式エアコンを導入。
- 3月
・第6次津南町総合振興計画を策定。(写真①)
- 4月
・新型コロナウイルスのワクチン接種開始。(写真②)
- 5月
・新型コロナウイルスの影響により、大地の芸術祭が延期。
- 8月
・JR東日本と連携し、津南産シャクヤク約1,800本を東京駅内の花屋などに新幹線で直送。(写真③)
- 9月
・信濃川上流圏域河川整備計画に基づく河川改修事業の堤防工事が着手。
- 11月
・東京都世田谷区と自然エネルギーの活用を通じた連携、協力協定を締結。
・信越トレイルが苗場山まで延伸され、津南町も対象範囲に。
・サッカー、アルビレックス新潟の試合で「津南町デー」が実施される。



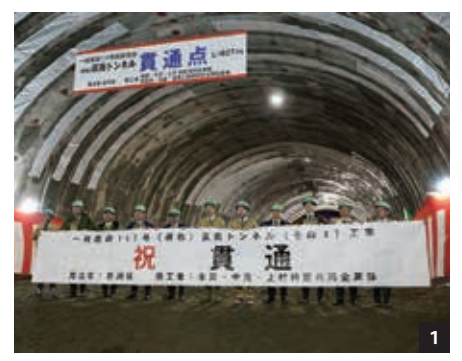
令和4年のできごと

- 2月・積雪4mを超える大雪により、人的被害や建物被害が発生。(写真①)
- ・津南町公民館が優良公民館として文部科学大臣から表彰。
- 4月・大地の芸術祭2022が開催される。(写真②)
- 6月・ヤマト運輸と包括連携協定を締結。
- 7月・3年ぶりに津南まつり、ひまわり広場などのイベントを開催。
- 9月・㈱良品計画と地域活性化等に関する連携協定を締結。
- 10月・まちなかオープンスペース「だんだん」がオープン。(写真③)
- ・リングロー㈱と災害時等における施設利用の協力に関する協定を締結。
- ・㈱官民連携事業研究所と官民連携推進に関する連携協定、㈱Another Worksと副業人材活用に関する連携協定を締結。
- ・苗場山麓ジオパークが日本ジオパークに再認定。



令和6年のできごと

- 2月・津南町農業協同組合が近隣の農協と合併し、魚沼農業協同組合が誕生。
- 3月・灰雨トンネル貫通式を開催。(写真①)
- 5月・㈱フエイガーと包括的連携協定を締結。
- 7月・津南まつりにて、民踊流しを国道405号線で実施。
- ・新潟食料農業大学と包括的連携協定を締結。
- ・大地の芸術祭2024にて、「アケヤマ秋山郷立大赤沢小学校」をはじめとした作品を展示。(写真②)
- 8月・赤沢神楽本舞台7年ぶりに開催。(写真③)
- 10月・㈱ギックスと地域活性化推進パートナーシップを締結。
- 12月・苗場山麓ジオパーク認定10周年。
- ・津南町森林組合、㈱バイウィルとJ-クレジット創出に係る連携協定を締結。



令和5年のできごと

- 1月・外丸集学校として、おかえり集学校の事業が開始。
- 3月・4年ぶりにつなん雪まつり開催。
- 6月・Godivaとコラボし、雪下にんじんを使用したメニューを販売。
- 7月・津南まつりにて、国道117号線で最後の民踊流し実施。(写真①)
- ・少雨によりダムや溜池などが水不足に。農業者支援のための渇水対策実施。
- 8月・津南町のブランディングロゴ「ゆきみず だいち つなんまち」を発表。(写真②)
- 10月・若ヶ崎小学校創立150周年記念式典を開催。
- ・だんだんがグッドデザイン賞とウッドデザイン賞を受賞。
- 12月・「米・食味分析鑑定コンクール国際大会inつなん」を開催。町内事業者が最高賞を受賞。(写真③)



令和7年のできごと

- 2月・豪雪により、豪雪対策本部が設置され、災害救助法が適用。
- 4月・津南地域衛生施設組合管内でプラスチックごみの分別収集を開始。
- 6月・おてつたびを活用して「つなんのインターンシップ」を実施。
- ・ANAC×AirJapan×津南町プロジェクトが開始。(写真①)
- 7月・大阪・関西万博の新潟県ブースに津南町が出席。
- 10月・旧中津小学校校舎を活用した津南町埋蔵文化財センター「うもれあ」がオープン。(写真②)
- ・町制施行70周年記念として、NHKラジオ「民謡をたずねて」の公開収録が開催。(写真③)
- 11月・町制施行70周年記念式典を開催。





ゆき みず だいち
つなんまち

深い雪

清冽な水

アートにも似た大地の造形

自然を敬い 自然に育まれ

自然と共に生きるまち 津南

ここに暮らす人々は 縄文の太古から

その激しくもゆたかな自然を

知恵と努力で価値へと変えてきた

自然の持つ力に注目が集まる今こそ

津南は町の原点をしっかりと見つめることで

次の時代を描いていく



町制施行70周年記念事業テーマ

ゆき みず だいち つなんまち
「70年の歩みを未来につなぐ」



町章

つなんの文字を組み合せ
図案化したもので町の融
和、団結と平和を表し、限
りない発展を象徴したも
のです。(昭和45年4月1日
制定)



町の花／ひまわり

(平成17年11月5日制定)



町の木／ブナ

(平成17年11月5日制定)



町の鳥／ウグイス

(平成17年11月5日制定)

津南町町制施行70周年記念誌「10年の歩み」

- 発行／令和7年(2025年)11月
新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡戊585番地
津南町役場総務課 TEL.025-765-3112
- 印刷／新潟県中魚沼郡津南町大割野
有限会社 津南印刷商事 TEL.025-765-2171



新潟県・津南町